

【第 669 号】

発行 日 2026年7月16日

発行責任者 喬木村公民館長

林 司

編集責任者 公民館広報部長

池田 英明

印 刷 龍共印刷株式会社

たかき 公民館報

題字：真浄寺書道会 松澤 紗采

写真：喬木カメクラクラブ 宮下 之宏 「赤玉ねぎの夏」

たち!

少年野球喬木大会50周年を迎えて

した。今回の公民館報では、そんな長い歴史がある少年野球クラブの魅力を選手たちの声とともにたっぷりお届けします。

現役で活躍中のクラブ出身選手



大島 惟央汰さん
(信濃グランセローズ投手)



宮島 拓斗さん
(JR 東海野球部投手)
※写真はクラブ所属時のもの



松村 美咲さん
(神戸弘陵学園高等学校 1 年
女子硬式野球部二塁手)



松村 咲希さん
(神戸弘陵学園高等学校 3 年
女子硬式野球部投手)

小池 里桜さん (第二小 6 年生)

女子クラブ員の小池さんに野球を始めたきっかけや目標をお聞きました。

「前からやってみたいと思っていたけど、友達に誘われたことがきっかけで 4 年生から始めています。チームはみんな仲良しです。野球をしているときは何をしても楽しいです。クラブの活動で心に残っているのは、ヒットを打てたときのことです。足の速さが私の武器です。守備ではボールを怖がらないことを意識しています。今後の目標は、もっと打てるようになりたいし、チームに貢献できるようになりたいです」



白球を追う! 喬木のこども



喬木村体育協会加入の喬木少年野球クラブが主催する「少年野球喬木大会」が去る5月5日に第50回の節目を迎え開催されま

木下 壽雄さん (クラブ顧問)

発足当初よりクラブを指導してきた木下さんに、当時を振り返っていただきました。

「昭和51年7月、当時の教育委員会の方たちの要請を受け、『第一少年野球クラブ』として31名で発足しました。同年に保護者・指導者の中で『大会を開いてはどうか』との声が上がりました。そして、昭和52年5月24日に8チームで第1回喬木大会が開催されました。以後、喬木大会は5月5日のこどもの日と決めて、これまで50回の開催を迎えました。喬木大会は全国大会まで繋がる大会です。少年野球では、勝つことももちろんですが、礼儀を重んじています。また、監督やコーチが選手の良いところをうまく引き出して伸ばすことも大事だと考えています」

牧田 大知さん (現監督)

牧田さんは、クラブの卒団生で現監督(1年目)です。クラブのテーマや活動内容についてお聞きしました。

「現在、喬木少年野球クラブは19名で活動しています。活動日は基本的に土曜日の午前中です。自分自身も6年間所属していました。大人になっても仲間が集まるくらい繋がりが強いのが少年野球クラブの魅力だと思っています。全員野球を大切にし、野球の技術だけでなく、仲間と協力することの大切さや思いやりの心を育んでいます。野球の楽しさを知り、卒団後も野球を続けたいと思えるチームを目指しています」

梶間 恵陽さん (現主将・第一小6年生)

現主将の梶間さんに野球への熱い思いや今後の目標をお聞きしました。

「今はファーストやセカンドを守っています。捕球したときにバチンッと大きな音が出た時が気持ちいいです。けど、ファーストはやる事が多くて大変です。ピッチャーじゃなくてもチームに貢献できるならうれしいです。嫌になることがあったとしても、みんなと声を掛け合って、チームで一緒になって戦うのは楽しいです。目指している選手は万波中正選手(北海道日本ハムファイターズ)。万波選手のように肩が強くなりたいです。主将としてチームの仲間にはいけないことはいけないと伝え、チームをまとめるよう頑張りたいです」



●ユニフォームの変遷



公民館スポーツ部

春のペタンク交流会

5/24(日)
開催



競技中に聞こえてきたのは「イス」おー！という感嘆の声と「あー！」の落胆の叫び。みなさんで楽しんでいるのが印象的でした。



● 結果 ●

Aブロック●

優勝 氏乗 B

準優勝 帰牛原 A

Bブロック●

優勝 帰牛原 B

準優勝 北 B

Cブロック●

優勝 帰牛原 C

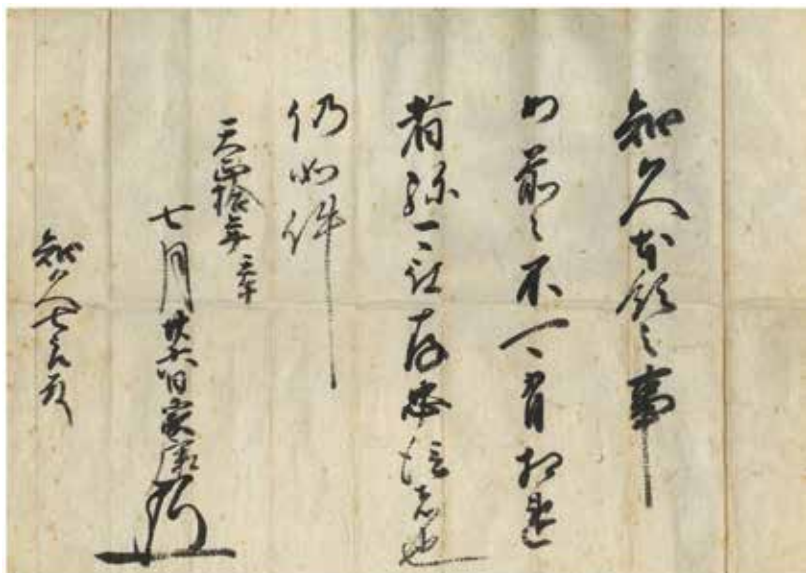
準優勝 伊久間 A

春のペタンク交流会が第一小学校グラウンドを会場に開催されました。結果は次のとおりです。

家康、あせ 焦る

一資料館のお宝紹介一

喬木村歴史民俗資料館長 青木 隆幸



資料館に、家康が知久頼氏に送った天正十年七月の本領安堵状がありま
す。信長が死去してわずか二月半後です。
「安堵」は土地支配を認めること。飯
伊では珍しい家康直筆書状です。「家康
伊賀越え」の際、頼氏が護衛したこと、
七月初めの家康甲府侵攻の時、頼氏が
伊那の武士を率い活躍したので安堵状
が出されたと言います。

の仲とされますが、この年の五月が初
対面。謎ばかりですね。
手がかりは、天正十年七月の家康を
「神君」のイメージでみないことです。
信長なき後の信州は、東に北条、北に
上杉、南に家康。誰一人、〈明日の自分〉
を思い描けない段階です。実は、北条
も上杉も家康も、この時期に「安堵状」
を乱発しています。皆、味方が欲しい
のです。藁にもすがる気持ち、「根拠の
ない約束手形」攻勢です。「偉大な家康
の書状だから効力を発揮した」はただ
の思い込み。もがき、焦り、祈る気持
ちで二枚一枚を認めています。39歳。

史料をけなすものではありません。
ん。「明日が見えない今日」を、
うろたえつつ全力で駆けてい
る、その姿が伝わってくるので
す。けなげで、愛おしく感じま
す。「東照大権現様」よりよほ
ど人間味溢れていて面白い。一
方頼氏にすれば、書状一枚で何
が安堵されるわけでもない。存
亡をかけた戦いは、ここからス
タートです。
学校では歴史は暗記科目で
退屈ですが、当事者の気持ち
を想像すると面白くなります。
どの史料にも、生まれる時に託
された想いがあります。「史料
たちの声を聴き、皆さんに届け
たい」、そんな気持ちで展示の
リニューアル、解説、講座に取
り組んでいます。

突撃！となりのたかぎの子

社会教育委員会主催

第4回地域探検ツアー 富田編

～陶芸体験をしながら「富田の里」を知ろう！～

地域探検ツアーは、社会教育委員会が主催する事業で、村内の小中学生と村内のいろいろな地区を訪れ、地域にある自然や文化を体験活動を通して知ること、ふるさとを誇りに思える子どもを育てたいと考え実施しています。

第4回を迎えた今回は、「富田」地区で開催しました。喬木中学校の生徒の皆さんが積極的に関わってくれたおかげで、企画・運営の幅が大きく広がりました。そして、富田の長い歴史と伝統文化を体験活動を通じて深く学ぶことができ、大変充実した事業となりました。

中学生によるレクリエーション

小学生に富田のことを楽しく知ってもらおうと富田に関するクイズゲームをしました。中学生の表現で富田の魅力をたくさん伝えてくれました。



富田のことたくさん知れたかな？

富田焼の陶芸作品づくり

中学生が先生になって、小学生に富田焼の陶芸作品づくりを教えました。



みんなの感想

- ・小学生のみんなが楽しくやってくれて、すごいやりがいを感じた
- ・企画をとおして自分自身も成長できたし交流もできて仲を深められた
- ・小学生のみんなに楽しんでもらえたし、自分も一緒に楽しめた
- ・中学生と一緒に陶芸づくりができてよかったし、富田のことをたくさん知れました



学校運営協議会三校合同会議 4月27日

保・小・中の連携を軸とした令和8年度の地域学校協働本部の方向性が議論されました。大きなテーマは、「世代を超えた縦のつながり」による子供たちの憧れの醸成。子供たちが年上の存在に対して直感的な「憧れ」を抱く縦のつながりを、地域全体で重層的に構築することをめざし、保育園から高校大学生、さらには地域住民に至るまで各世代が「かっこいい」手本として振る舞い、具体的な役割を果たすことで次世代への意欲と伝統の継承を促したいのがねらいです。

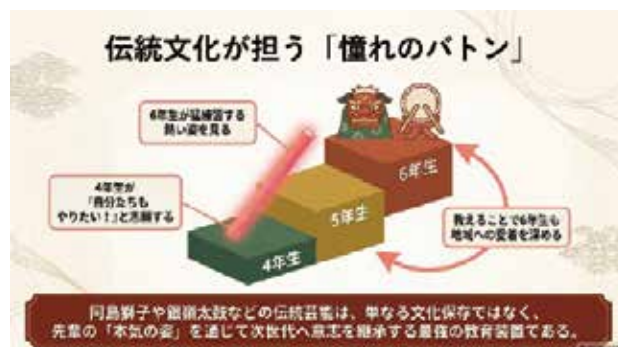
中小3校の取り組み：比較・統合マトリクス

	1. 身近な先輩（保小・小中）	2. 外部プロ・高校生	3. 地域住民・伝統
第一小	とろりん公園での交流	飯田支援学校交流	阿島獅子、エプロンサポーター
第二小	複式授業での教え合い	テックレンジャー、学遊館	富田焼体験、銀嶺太鼓
喬木中	小学生への富田探検クイズ、青風祭招待	未来仕事フェア、サマーチャレンジ	地域の防災ワークショップ参画

各校の取り組みを俯瞰すると、すべての学校が「身近な先輩」「外部の知見」「地域の伝統」という3つの軸で、立体的に憧れをデザインしていることがわかる。

左は現在の三校の取り組み状況

↓ 憧れ醸成の具体



私たち大人は、防災訓練や河川清掃などの地域活動、ボランティア活動で本気で取り組む姿を子供たちに見せるという意見も出ています。

6/27 令和8年度 第1回公民館平和学習会 講師：満蒙開拓平和記念館事務局長 三沢 亜紀さん

「満蒙開拓の歴史が語りかけるもの ―記念館のあゆみ、そして映画『黒川の女たち』によせて―」



【予 告】

第2回公民館平和学習会 映画上映会

上映作品：『黒川の女たち』

日時：令和8年9月6日（日）

14時00分～16時00分

（13時30分開場）

会場：喬木村福祉センター 多目的ホール

昨年、映画「黒川の女たち」が制作され話題になりました。（喬木村でも9月6日（日）に自主上映会を開催します）。このドキュメンタリー映画が世に出るには、阿智村の満蒙開拓平和記念館の活動があったからだとなりました。

そこで、記念館事務局長の三沢 亜紀さんから話を聞きたいと今回の公演をお願いしました。平和学習会は21年間で、65回行われており、三沢さんは3度目になります。

広島県出身の三沢さんが阿智村で平和教育に関わる不思議なご縁や、開館から13年の記念館がどういう役目を果たしてきたかわかりやすくお話ししてください、50名の参加者は熱心に耳を傾け、平和への思いを共有いたしました。

感想をご紹介します。

・満蒙のことは、NHKEテレビで観てはいましたがピンときていなかったです。東京の友人と記念館に一緒に行き、かなりの長い時間を費やして学ぶことが出来ました。今日は、三沢さんのお話が聞けて映画につなげていける事がよかったと思っております。

・三沢さんのお話は、幼い時聞いた父と父の弟の戦地での話と結びつき、考えさせられる事ばかりです。

・19歳の娘をイイヤヤでしたが連れていきました。話に涙を浮かべている時もありました。こういう生の体験はとても貴重だとも思いました。こういう生父の事です。当時はしょうがなかったと言いつつながら青年会で果たした役割が何十年も心の重しになっていったのだと思います。

喬木まつりステージ発表出演者の募集

9月26日（土）に開催される喬木まつりのステージ発表の出演者を募集します。

- ・申込期限 **7月31日（金）**
- ・申込方法 1. 公民館にお問い合わせいただければ、「出演申込書」を送付します
2. 右記に記載の二次元コードからも申し込み可能です

※出演時間に限りがあるため、応募者多数の場合は喬木村民または出身者の多い団体を優先とします。



WEB申し込みフォーム

喬木村俳句会 水無月句会 詠草

雨上がり梅雨山浮かべ雲走る
古廊下くわがた虫のカシヤカシヤと

森 美知子

夏燕子育て眺む夫の笑み
白鷺の二羽憩ひたる青田風

伊藤 こふみ

新緑の香り漂ふ夜半かな
衣更ふ採用試験始まりぬ

木下 瑞恵

来世より今日一日と夏椿
初夏の雨傘のすれあふ杉の路

矢澤恵美子

十葉の雫含みて庭の先
今日の日も変わらず過ぐす梅雨の空

松島みのり

風薫る同級生の絆かな
青空や尾根に聳す「夏は来ぬ」

宮島 高枝

静かさや若葉の寺に経流る
早苗田に鴨のつがいの昼餉かな

村山たか子

夕焼くる母の腕に包まるる
病棟の声弾みくる星ゼリ

松葉 孝子

遠花火街の灯恋し九十路
ゆるゆるとシニアの集ひ初夏の風

市橋 ヨリ

暮行けば追伸のごと青葉風
ほたる狩り欠かせぬ母の草帯

吉川てる子

たかぎ短歌会 文月歌会 詠草

久々に我が家に帰り仏壇の夫の貌見て「ただいま」をいう

和田 京子

在りし日の夫の写真はマイク持ち十八番を唄う若かりし姿

木下 寿子

虹の橋渡って逝った愛猫の声が聞こえる傍に居ること

内山 貴子

戦地より亡父の手紙は色あせて死を覚悟した筆跡残る

知久 美子

揚羽蝶百日草の花に来てワルツを踊る「私見てよ」と

小椋 りよ

八十路過ぎ子や孫達の幸せが何より大事と気づくこの頃

田中 妙子

憧れのワールドカップに熱狂しボール追う子等心が燃ゆる

塩澤真由美

ゆくりなくクラスメイトの身罷りぬ弔辞書きつつ青春偲ぶ

木林 睦枝

八十過ぎを頭に集ふ五姉妹の過ぎこし方の話題は尽きず

市瀬 准子

梅雨に入りこぞとばかり岩松葉の緑を増して葉を広げある

内山 和子

何時までも短歌の材料浮かばぬ夜焦りつつ亡母の歌集緋く

元島 康子

祖母や妣立派に在りき座り胼胝昭和の妻も娘にもつゆ無し

福澤 亀人

報告会(書道)を開催



第62回全国学生書道展
毎日新聞社賞 相澤一花さん

お世話になります



新公民館主事
小金澤 侑矢

7月1日より、教育委員会社会
教育係・公民館に配属となりまし
た小金澤侑矢と申します。

6月までは同じ教育委員会の子
ども教育係にあり、公民館事業の
雰囲気や言葉はなんとなく耳にし
ていましたが、いざ自身が担当と
なると、まだまだわからないこと
ばかりだと実感しています。

不慣れな点多く、至らない部
分もあるかと思いますが、皆様の
「やりたい」を一緒に実現できる
よう誠心誠意努めてまいります。
温かいご指導・ご鞭撻のほどよろ
しくお願いいたします。

お知らせ

棕文学夏期講座

日時：令和8年8月23日(日)
14:00～15:30
場所：喬木村防災センター2階会議室
講師：菅沼 利光 先生
演題：「若き日の棕鳩十とアルプスの画家
セガンティーニ」
入場：無料・申込不要

武田信玄狼煙リレー

日時：令和8年8月29日(土)
8:20 集合
場所：・富田城山
・加々須茶臼山

公民館自主企画講座 参加者募集

暑さに負けない身体づくりを学び、地域の特産品の美味しさを知ろう！
企画名：ウェルビーイングのアーユルヴェーダ講座
日時：令和8年8月1日(土) 11:00～13:00
場所：福祉センター2階料理教室
内容：①古典医学「アーユルヴェーダ」を知る
②志げ子なす🍌と赤石紅にんにく🍷
のスパイス炒めを含むワンプレート
の試食会
講師：スリランカ料理 アルッガマゲ店長
Biyori Aluthgamage 氏
参加費：1,000 円
申込：7月27日(月) までに喬木村公民館へお申し込みください。

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

あのとこ
このとこ

公民館長



ジャイアンツの阿部元監督が一晩の出来事で辞任したのは、まだ記憶に新しい。長女が監督の暴力に対して対話型AI(人工知能)に相談したところ、児童相談所が匿名で相談にのってくれるとあり電話すると、児相が警察につなげ逮捕されたという事件。

また、AI卓球ロボットが10年以上の競技経験をもつ強豪選手5人のうち3人に勝利したとか、中国北京で開催された人型ロボットのハーフマラソンでAI制御の自律走行ロボットが人間の男子世界記録よりも7分も速くゴールした、と話題になった。

年の入試では全科不合格だったことを考えれば、ここ数年のAIの進歩が恐ろしいほど速いことが分かる。

さらに、防衛産業にもAIが浸透しつつあるという。ウクライナでの戦闘では、ドローンなどにAIが大規模に応用された初めての事例であるとの報道もあった。サイバーセキュリティしかり。私たちの日常生活は勿論のこと国家の安全対応までAIが必要不可欠な状況である今、人としてどんな力を付けなければならぬかを考えたいし、どんな意思決定をすれば、AIを有効利用し翻弄されない自分になれるかを問うていきたいと思う。(林)

今回の表紙

題字

真浄寺書道会 松澤 紗采さん

(飯田高校2年)

小学校5年生のときから書道を習っています。行書で書くのは久しぶりだったので楽しかったです。色々な書体を書いてもっと上手くなれるようにがんばります。



写真

喬木カメラクラブ 宮下 之宏さん

先日、地元のスーパーで買って来た赤玉ねぎを片手に持ち、自宅の空に掲げ、もう一方の手にミラーレス一眼カメラを構えファインダーを覗く。思い通りの絵になった瞬間、シャッターを切る。喬木村の夏空に燃える様な情熱と華やかさを添えて見ました。

ご意見・ご感想
お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！
喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！

☎ 0265-33-2002

mail: syakai@vill.takagi.lg.jp

編集後記

夏の暑さがやって来た。昨年のように6月から真夏日とはならず梅雨らしい天気の日も多く、晴れた日の洗濯物の乾きの早さには太陽のありがたさを感じた。ただ、年々気温は高くなり、草木の成長が著しい。そんな中、定期的に村内の主要道路の草刈り作業等を行っているシルバーの皆さんには頭が下がる。地域奉仕は簡単ではなく、また強制されるものでもないが、地域に生きる者として、自発的な活動を次世代の私たちも同じように続けられるのか、と作業を横目に職場に向かいながらふと自問した。